

登録コード	L2730400	開講年度	2026	
担当教員	中澤 光平	副担当		
授業科目	日本語学特論IV			
英文授業名	Linguistics of Japanese: Specialized Lecture IV			
授業タイトル	日本語と有標性			
単位数	2	対象学生		講義期間 前期 曜日・時限 木曜・4時限
講義室	人文第2講義室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ			
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	日本語学に関する概念・用語を十分理解し、日本語を言語学的な観点から分析することができる。
	【2023年度以降カリキュラム対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】		⇔	日本語（学）に関する文献を読み、その内容について、他の資料などを利用して批判的に検討し、自分の考えを論理的に提示することができる。
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働			
全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース			
授業の概要	日常の中で「変わっている」と感じる日本語の表現に出会うことがある。しかし、それはどのように変わっているのだろうか。あるいは、それは本当に変わっているのだろうか。また、日本語は「変わった言語」だと主張されることがある。しかし、日本語はどのように変わっているのだろうか。日本語は本当に変わった言語なのだろうか。「普通の表現」、「普通の言語」とは何だろうか。 言語学の概念で、一般的な形式を「無標」、特殊な形式を「有標」という。この授業では、日本語（現代共通語）を主な対象として、日本語の無標／有標の基準について議論することを通じて、有標性とは何かについて理解を深めることを目的とする。			
授業計画	基本的に下記の計画通り進めるが、進行その他の理由によって順番や内容を変更する可能性がある。 第1回 ガイダンス：有標性とは何か 第2回 日本語の音の有標性（1）：母音と子音 第3回 日本語の音の有標性（2）：音節構造、アクセント 第4回 日本語の語形の有標性（1）：活用語と活用 第5回 日本語の語形の有標性（2）：品詞 第6回 日本語の配列の有標性（1）：語内部の形態素の順序 第7回 日本語の配列の有標性（2）：語順 第8回 日本語の語彙・意味の有標性（1） 第9回 日本語の語彙・意味の有標性（2） 第10回 日本語の表記の有標性（1） 第11回 日本語の表記の有標性（2） 第12回 これまでの振り返り 第13回 日本語の方言と有標性 第14回 日本語の有標性：日本語は有標な言語なのか 第15回 まとめ、授業アンケート			
成績評価の方法	リアクションペーパーに基づく平常点（30%）と期末レポート（70%）をもとに評価する。 期末レポートの課題内容については第1回の授業でアナウンスする（eALPSにも掲載する）。 期末レポートは下記のいずれかを満たす場合に提出を認める。 ・出席が10回以上（初回、最終回を含む） ・アンケート（リアクションペーパー、授業アンケートとは別）への回答が8回以上			
成績評価の基準	授業内容の重要事項を不完全ながらも理解し表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」 授業内容の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」 授業内容の全体を理解し表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」 授業内容の全体を理解したうえで自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越している）」 上記に至らないものは「不可」			
事前事後学習の内容	60時間以上の時間外学習が必要となる。期末レポートの作成に必要な時間を15時間程度として、予習・復習を毎回3時間程度行うこと。 講義で扱うテーマは事前に伝えるので、キーワードについて調べるなど、授業に備えて予習を行うこと。 また、期末レポートに向けて、講義で扱った内容の復習を行うこと。			
履修上の注意	「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」を事前もしくは同時に受講していることが望ましい。これまでに「日本語学概論」を受講していない場合は今年度の「概論Ⅰ」を受講することを強く推奨する。			
質問、相談への対応	できるだけ講義が終わった後に質問するように。授業後に提出を課すリアクションペーパーに質問事項を書いてよい。必要であれば教員あてにメールでアポイントメントをとること（メールアドレスは kohein@shinshu-u.ac.jp）。			

教科書	使用せず、毎回プリントを配布する。
参考書	授業中に適宜指示する。